

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「伝えると伝わる」

「特別支援教育の扉No.20」で紹介した秋田大学教育文化学部附属特別支援学校の中学部3年生の生活単元学習の授業を再び参観しました。修学旅行で体験した石けんの作り方を2年生の後輩に分かりやすく伝えることをねらった授業でした。参観者に2年生役になってもらい、リーダー役の生徒を中心に、色付けや香り付けなど4つの工程に分かれ、石けんの作り方を説明しました。生徒の個々の目標が「～伝える」だったので、私は生徒が「相手に伝える」ではなく「相手に伝わるように話していたか」という視点で参観しました。

○伝える・・・自分の考えを一方向的に相手に伝える行為であり、主語は「自分」である。
 ○伝わる・・・相手の目線や表情を理解しながら、自分の伝えたいことがきちんと相手に伝わっている（通じ合っている）状態であり、主語は「相手」である
 自分の考えをどうすれば相手に「伝わるか」という意識をもって話すことが大切となる。
 伝えると伝わるは、たった一文字違いであるが、その意味は全く異なる。

〈効果的だった支援〉

- ・始めに、伝え方のポイントと声の大きさをロールプレイを交えて確認した後、明確な評価基準を示したので、相手に伝えようとする意欲が高まった。
- ・言葉だけでなく、時々ジェスチャーを交えて伝えたので、説得力が増した。
- ・実物を見せて説明したので、石けん作りのイメージが広がり、製作意欲が高まった。
- ・石けんの作り方を具体的な視覚情報で示していたので、製作活動に見通しがもてた。
- ・自分の得意な工程を担当することで、生徒が責任と自信をもって伝えていた。
- ・「20秒、2杯、5滴、15分」等、具体的な数字はすぐ行動に移せる。(数字やオノマトペは、脳に直接働き掛け、イメージをもちやすくするため大人にもプラスの作用をもたらす)
- ・声の音量を変えたり、抑揚をつけたりして話す場面は、思わず話し手に注目したくなった。
- ・活動の様子を動画で振り返ることで、客観的な自己評価と次時への意欲につながった。

○伝わる話し方のポイントは、「ゆっくり・すっきり・はっきり、にっこり」です。
 コミュニケーションは、「伝える」ではなく「伝わる」です。言葉のドッジボールではなくキャッチボールを目指しましょう。果たして、私の思いはしっかり「伝わった」でしょうか。



とれたて直送便



「スペシャルタイム」

以前、双子の子どもをもつお母さんの子育ての秘訣は「外に出るとみんなが二人を比べるので、家ではなるべく比べないようにしています」と紹介しました。先日、三つ子の子どもを育てているお母さんに同じ質問をしました。答えは「一人と過ごす時間を大切にしています」でした。例えば、買い物に行くときは、3人一緒ではなく、今日は〇〇さん、別日は□□さんなどと決めて、1対1の時間と空間をつくって話したり、好きな物を買ってあげたり、スキンケアをしたりしているようです。子どもにとっては、お母さんを独占して思いっきり甘えられる「スペシャルタイム」だと思いました。